

在宅介護への思い

訪問介護員 ひろしげ 弘重 あけみ



私の仕事は、在宅介護の手助けをさせて頂くホームヘルパーです。私がこの仕事をするきっかけになったのは、父母が介護保険制度のない時代に在宅で三人の最期を看取ったことからです。栃木的那須から遠く長野に嫁いだ私は、父母の手助けを何も出来ず、かわいがってくれた祖父母たちの世話も出来なかったことが心残りでした。家族の役目とされてきた高齢者の介護。私は「介護する側とされる側が共に無理なく安心して快適な毎日を過ごすことは出来ないだろうか？」そんな思いを感じながらいました。

現在、介護保険制度の導入により、人が人らしく最期を迎えることが出来るよう、施設や在宅・通所などのサービスが充実し、ご家族・ご利用者が質の高いサービスを選べるようになりました。その手助けをさせて頂くこととなった今、ご家族のご利用者に対する思いをしっかり受け止め、私たちも一緒になって悩み考え、プロとしての提案もさせて頂きながら良いサービスを提供できればと思っています。

これからも皆様の希望や思いを伝えて頂き、「お一人お一人に合った介護を進めていきたい」そして「どんな状態の方でもその人らしく最期を迎えて頂きたい」そんな思いで在宅介護を応援して行きたいと思っています。

城西医療財団白馬学術研修会終わる

7月16日 13:30~14:30

「留置カテーテルとおむつの排泄ケアについて」

講師 西澤看護長 大林介護員

場所 白馬村農業体験実習館

参加者は施設内外を含め55名、研修会終了後に蕎麦打ちの見学体験と蕎麦会食があった。

白馬メディアでの卒後臨床研修を終えて

豊科赤十字病院 佐藤 俊夫

長寿県長野において、高齢者の生活の向上は、医療と切り離せない関係にあります。今回の研修(9/5~9/17)を今後の自身の医療人生に活かし、また少しでも皆様に還元できればと考えております。ありがとうございました。

お知らせ

秋の鍋会

どなたでもご参加できますので、お気軽にご参加ください。
なお、人数把握のため、参加ご希望の方は事務所の窓口にお声がけください。

日時：10月21日(金)
18時~20時

場所：農業体験実習館
(白馬メディア隣)

参加費：お一人 500円



プロジェクトα

~編集後記~

赤子の手 夕日にかざす もみじかな

7月に産声を上げた白馬メディア通信も、第2号を発行することができました。

通信を読んでいただいた方から温かいお言葉をいただき、とても励みになりました。今後、年4回発行する予定です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。
鎌倉

しろうま

白馬メディア通信



発行日：平成17年10月10日 第2号



施設より望む五竜遠見スキー場

敬老おたっしゃ会

「家族みんなでおたっしゃかい？」を合言葉に、9月19日敬老会が開催された。今回は各フロアでこじんまりと温かい雰囲気の中、古希や白寿等、節目にあたる方のご自宅へ職員が伺い、ご家族よりビデオレターという形でメッセージを頂いた。またお元気に活躍されていた頃の写真などを記念品として差し上げた。ご本人にとってはなつかしい、私達職員にとっては初めて見るご利用者のご自宅と素顔であった。いつもより少しだけおしゃれをして臨んだ式典には背広姿のご利用者もおられ、私達を痛く感動させた。大皿を囲んでの昼食会のあとは、ボランティアさんや職員による歌や踊り、ピアノ演奏などが行われ、祝典に花を添えた。

私たちはどうしてもご利用者の生活を施設の中だけで完結させがちであるが、その方の人生を知ろうとするならば、ご家族や地域をも含めた広い視野で捉えなおすことが求められるだろう。4回目となった今回の敬老会は、人生の先達者の物語に耳を傾け、ご利用者・地域の方・職員が力を合わせて、一人ひとりの心に届く行事のあり方を提示することへの試みであったと思う。

お忙しい中、お祝いに駆けつけて下さいましたご家族や地域の皆様、ご協力をいただきました多くの方々に感謝申し上げます。



編集・発行

かみしろ 神城病院 (内科・心療内科・皮膚科・精神科)

'S' ウェルネスクラブ神城 (疾病予防運動療法施設)

しろうま 白馬メディア (介護老人保健施設)

かたくりの郷 (グループホーム)

北アルプス訪問看護ステーション

北アルプス訪問介護ステーション

しろうま (居宅介護支援事業所)

〒399-9211

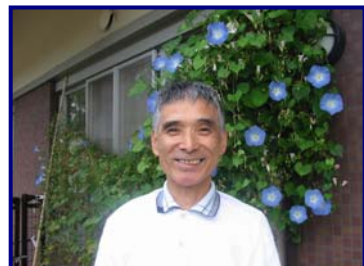
長野県北安曇郡白馬村大字神城 22844-4

TEL 0261-75-7100 (代)

FAX 0261-75-7120

リハビリことはじめ

診療部長 酒見 祐吉



リハビリテーションの仕事に就いてから今年で30年になりました。当時、養成校は全国で4校でした。各学校は定員20名でしたから養成校の設置は急がれ、卒業時には8校になっていました。現在では163校(H15年)から多数のPT(理学療法士)、OT(作業療法士)が巣立って医療、福祉の仕事に携わっています。

33年前の春、東京府中市の小さな敷地に立つ小さな学校に足を踏み入れてから、リハビリの道を今まで歩き続ける事となりました。当時の学校は、入学時の諸手続きに数万円の支払いをただけで以後3年間学校に支払う事はありませんでした。全国で初めての革新知事美濃部都政での学校でしたから医療福祉への熱意は、教育においてもさきかけていました。当時は、リハビリテーションの講義を担当できる日本人の教師はいなかったため、理学療法の講義は外国人教師から受けました。私たちの時にはフランス、イギリス、アメリカから数年契約で招かれていました。講義はすべて英語で行われました。教科書はなく、先生方が打ってくださったタイプライター印刷の資料が教科書代わりでした。寮生活を基本としていたので3年間同じ敷地内にある学校と寮の往復の日々でした。授業は朝9時から夕方5時まで。しっかりと学びました。新しい時代への新しい仕事として毎日の授業がとても楽しみでした。今、校舎も寮も跡形なく駐車場に様変わりをして、敷地の片隅の小さな碑が学校の存在を伝えています。その碑には、こう記されています。

「みちを拓く」

家族の季節

調理師 佐藤 明美



最近、自分の家族の誕生日、と言うよりは家族の生まれた季節について気にかかることがある。たまたまその季節に生まれたと言うような話ではなくて、血の繋がりによって導かれる様に、然るべき季節に私も私の家族も生を受けたのではないかと、思われて仕方がないのだ。

例えば、私は9月生まれ。季節で言えば夏になる。長男が生まれたのは8月で、長女は私より2日遅れの9月、そして次男が再び8月に生まれた。ちなみに長男の誕生日は私の母の1日あとである。そして8月生まれの私の母は長女の私を9月に、弟を7月に生んだ。妹は予定日の5月を待たずに4月に小さく生まれて、3人きょうだいの中で一人だけよく病気を患う。母も私も夏に縁があるようだ。そう考えれば結婚した長男のお嫁さんは秋の人ということになる。彼女は10月生まれで、長男を12月に産んだ。次男は9月の末に未熟児で産んだのだが、予定日は10月だった。この次男はすくすくと順調に成長している。

植物は種類によって花の咲く季節、実りの季節が決まっている。もしかしたら家族によって違うけれども「ひと」もそうかもしれない。ただ人間は複雑な環境の中で生きているから、植物ほど単純ではない。産声をあげたその季節からその人の生のサイクルが始まる。実りの季節もその時に決まるのかも知れない。

“初心を忘れずに”

ディケアリーダー 谷口 禎



白馬メディアの開設以来、認知症専門棟に2年、一般療養棟に2年、そしてこの4月より通所リハビリテーション(ディケア)のチームリーダーとして勤務させて頂いております。今回は私が皆様に向けて発信する初めての機会になりますので、改めて『はじめまして』の想いを込めて、私が介護の仕事に就いたエピソードを紹介させて頂きます。

私の祖母は医師から「もう歩行は不可能でしょう」と診断されていました。結果から申しますと、祖母は自分で歩いて近所に散歩に出掛けられるまでに回復することができました。もちろん、祖母自身の「また歩けるようになりたい」という想いが強かったということ、人一倍の努力をしていたということは尊敬に値する位のものだと感じておりましたが、祖母の表情や様子から、入院中のリハビリ、通所介護・通所リハや訪問介護など様々な場面で祖母に係わって下さった方々の支えが何よりも大きな力であったことを実感したのです。身体的なことばかりではなく祖母の心をも支えて下さっていたと確信しております。そんな光景を一家族として目の当たりにしながら「私にも何か出来ることは無いだろうか？私にも誰かの手助けを出来るのではないだろうか？」と思うようになったことが介護の現場に身を投じてみようと思えるきっかけとなりました。

現在、様々な資格や知識・技術など、介護の現場に求められるものは多様化しておりますし、私自身も未だに誰かの支え・力になれたことなど無く、むしろ皆様からお力を頂くばかりの現状ではありますが、いつも初心を忘れずに、どうすれば皆様の支えになれるのかを考えることから始めたいと思っております。

ちやぶ台 を囲んで

白馬メディアに生活感あふれる品々を沢山譲って頂きました。
のんびりくつろげる空間が少しずつ広がってきています。

女ごころ

S様は、脳梗塞後遺症と闘いながら、踊りや漫談などのボランティア活動を続けています。
踊りは全てご自身のオリジナルです。



ありがとうございました

白馬メディアの夏の風物詩「天神原夜まつり」が7月30日に開催されました。地域の皆様の温かい励ましとご協力のおかげで楽しく和やかな夜まつりになりました。本当にありがとうございました。

そして、天神原の神々に感謝！！

天神原夜まつり実行委員

